

<日本史探究⑤> 繩文時代③ 教科書: P.11~P.12

5 繩文時代の暮らし

- ① 大型動物がいた頃の人々は、食料を求めて10人前後のグループで移動しながら生活していたので、住まいは(1.)や(2.)などであった。
- ② 繩文時代になると、**気候の温暖化**によって食料資源が豊富＆加工技術が進展！
→ (3.)の集落を営み、住居の中央には(4.)という煮炊きをする場が設けられた。

(1)人々の定住は、なぜ可能になったのか？

()

(2)繩文時代の人々は、何という住居に定住するようになったか？ ()

③ 3は水はけのよい台地上に営まれ、10軒ほどが中央の広場を囲む(5.)をつくった。(6.)県の(7.)貝塚などは5の形に従って形成された。

(1)竪穴住居が中央の広場を囲んで、輪のように10軒ほどが並ぶ集落を何とい？ ()

④ 全国各地で巨大集落が発見されており、中でも晩期の繩文土器が出土した遺跡として、(8.)県の(9.)遺跡があるが、同じ(8.)県の(10.)遺跡は、繩文時代前期～中期の遺跡で、500人規模の大集落と推定されている。

(1)青森県で発見された、繩文時代前期から中期にかけての巨大集落の遺跡は？ ()

6 繩文時代の墓制

① 繩文時代の墓地は(11.)墓地で、(12.)はなかった。(13.)といつ死者を折りたたんで**埋葬**する風習があった。また石を円形に並べたストーン＝サークルと呼ばれる(14.)も(11.)墓地と考えられている。



(15.)県の(16.)遺跡が有名！

(1) 繩文時代、死者の靈が炎をよぼすことを恐れて死者の手足を折り曲げた埋葬方法を何とい？ ()